寄せ太鼓

北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館
運営協議会 広報部会
北九州市八幡西区木屋瀬三丁目16番26号（〒807-1261）
TEL 093-619-1149
FAX 093-617-4949

筑前木屋瀬祇園まつり　7月13日(土)～14日(日)

木屋瀬祇園の夏　暑さを飛ばし山笠が走る

長い歴史と伝統ある木屋瀬祇園祭りが暑さと共にやってきます。本年の祇園祭りは7月13～14日に執り行われます。

輪番制による当番町は青山が日の出、赤山が下町となっています。

祭りは五月段階に実行委員会が立ち上げられ、神事、奉納行事など祭り全般の運営と運営資金の調達に当たります。

運営資金は各町の負担金と住民からの寄付金によるものですが、寄付金の額は年々減少の一途をたどっています。このように祇園祭りは住民からの浄財と協力により成り立ち、伝承されています。

一方、祭りを彩る山笠の飾り人形は須賀神社正面にある山笠会館において青年会を中心とした若者達が手造りで製作しています。今年はどういう飾りの人形になるのか、公開の時が楽しみです。

この祇園祭りは、前段での「棒洗い」や「台からげ」などの儀式をくぐり、七月十三日の朝、花火を合図にお汐い取りからスタートし、当番町による事務所開き、数次にわたる山笠巡行、宵山笠、須賀神社での奉納行事、追い山、宮入行事と進められます。祭りの最後を飾る宮入はまつりの最も見せ所でありまして、老いも若きも集中して取り組み、須賀神社周辺は人の波で混雑します。

一方、祭りを安全・円滑に進めるため、両山の取締り、掛合、行動、交通、保護の役割を担った各町の有志が町中を走り回り祭りを盛り上げていきます。

また、祭りの間全ての飲食や子どもたちのお世話など、賄い方としての女性陣の活躍も忘れてはなりません。こうした多くの人々の力が大きく相まって祭りが成り立っています。

暑さの中で懸命に取り組む人々を励まし、祭りの成功にむけて住民の皆さんのご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

木屋瀬宿記念館運営協議会
広報部会長　徳永興紀

子どものための北九州と世界の昆虫展

～松田勝弘コレクション～

みちの郷土史料館では、第73回企画展として「子どものための北九州と世界の昆虫展～松田勝弘コレクション～」【7月13日(土)～7月21日(日)】を開催します。

元北九州市立小学校長で昆虫研究家の松田勝弘氏が、ライフワークとして世界各地で採集した昆虫標本約80箱を展示します。国内外の様々なカブトムシやチョウなどの昆虫が持つ強さや美しさを観察することができる展示です。夏休みの自由研究の参考に子どもはもちろん、大人も必見です。

関連イベント
「虫の世界 -歌とお話し- 」

木屋瀬の女声コーラス「いちょうの会」の皆さんが歌う、昆虫をテーマとした歌の合唱と、松田勝弘氏による昆虫の魅力を紹介するお話を交えた楽しい音楽会です。ご家族やお友達と、ぜひご参加ください♪

日　時：令和元年７月21日(日)
　　14：00～16：00（13：30開場）
会　場：長崎街道木屋瀬宿記念館　こやのせ座
入場料：無　料
定　員：150名（6月18日(火)より電話による申し込み）
申込先：長崎街道木屋瀬宿記念館
　　TEL093－619－1149

イベントのお知らせ

イベントの詳細は木屋瀬宿記念館までお問い合わせ下さい。

夏休みイベント　こやのせ座 星の観察会

星空案内人、通称「星のソムリエ」と呼ばれる星空や宇宙の楽しみ方を教えてくれる講師の皆さんとともに星の観察会を開催します。家族やお友達と夏の夜空を眺めてみませんか？

▼日時…7月20日(土)19時30分～21時
▼会場…長崎街道木屋瀬宿記念館広場
▼参加費…無料
▼定員…30名（6月18日(火)から電話による申し込み）
※保護者同伴
▼申込先…長崎街道木屋瀬宿記念館☎093・619・1149

夏休みイベント　たなばたまつり

毎年恒例のたなばたまつり！昔遊びやビンゴ大会、縁日や人形ボードヴィル・ドラさんによる人形劇、そうめん流しなど、楽しい催しを多数ご用意しています。皆さんのお越しをお待ちしております。

▼日時…8月3日(土)13時～17時
▼会場…長崎街道木屋瀬宿記念館広場・こやのせ座
▼参加費…無料（一部有料）

夏休みイベント　昔のどうぐ体験

夏休み期間中、みちの郷土史料館では体験コーナーを拡大して展示を行います。江戸時代から昭和まで、懐かしさを感じる昔の生活道具を体験できます。触って遊びながら、使い方や仕組みを実際に体験してみてください。夏休みの自由研究の参考にもいかがでしょうか。

▼期間…8月1日(木)～9月1日(日)
▼会場…長崎街道木屋瀬宿記念館・みちの郷土史料館
▼入館料…小中学生60円／高校生120円／一般240円
※子ども文化パスポート持参で小中学生60円が無料

企画展 写真で歩く木屋瀬

現在、みちの郷土史料館では第72回企画展「写真で歩く木屋瀬」（4月27日(土)～6月30日(日)）を開催しております。大正から昭和にかけて、往時の木屋瀬の情景や、伝統行事、町並みの移り変わりが偲ばれる写真を約80点展示しています。

現在と過去を比較できる写真から、町の歴史や当時の生活の様子を伝えるとともに、現在との違いを感じることができます。昔を知る方には懐かしく、知らない方には昔の木屋瀬を新たに発見することのできる企画展です。

趣ゆたかな木屋瀬の魅力を再発見し、町への興味を深めることで町並み散策をより楽しむことができます。これを機会にぜひ、みちの郷土史料館に足をお運びください。

↑昔の石標

↓今現在の石標

木屋瀬宿記念館 収蔵品紹介

左：妙運寺の鯱を模した鬼瓦
右上：屋号が入ったの鬼瓦　右中：人を模した鬼瓦　右下：扇天満宮の亀を模した瓦

近世には宿場町として栄え、近代には炭鉱との関りで栄えた木屋瀬には、現在でも町にその面影が残されています。その中でも、旧家や寺社の屋根を飾った「鬼瓦」は、みちの郷土史料館にも数多く収蔵されており、当時の町並みを今に伝えています。

建物の大棟や降り棟・隅棟の先端に、雨仕舞と装飾のために据えた瓦を「鬼瓦」といいます。屋根本来の目的である雨や雪から建物を保護するという役割よりも、装飾用の意味合いが強く、鬼のような恐ろしい顔つきをデザインすることで建物に悪神がよりつかず、福を招くと考えられていました。

鬼瓦のルーツは飛鳥時代まで遡り、仏教と共に伝来した仏閣建築の飾り瓦が元になりました。この頃の飾り瓦は蓮華紋で、寺社仏閣から貴族、貴族から武家へと飾り瓦の文化が広まるにつれ、しだいにデザインが変化していき鬼面の鬼瓦が確立されたのは中世になってからであると言われています。

江戸時代なり、防火対策のために瓦葺きが奨励されたことで全国の都市部や宿場町、庶民へも瓦葺きが普及していきました。鬼瓦には通常の瓦とは別に専門の職人がおり、町屋では思い思いの趣向をこらした鬼瓦を作って屋根を飾るようになりました。

史料館には屋号を入れた鬼瓦や縁起ものを模して作られた鬼瓦など、デザイン性に富んだものが数多く残されており、そこから木屋瀬宿が経済的・文化的に栄えていたことがうかがえます。

みちの郷土史料館に展示している鬼瓦を見比べ、町中を散策しながら家々の屋根を観察し、豊かな木屋瀬の風情を感じてみてはいかがでしょうか。

（木屋瀬宿記念館　学芸員：岩崎秋沙）

シリーズ

第46回 須賀神社 祭り歳時記 その1

筑前木屋瀬宿 神仏めぐり

年号も「令和」と改まった、五月初め木屋瀬宿の産土神社として崇められる須賀神社の末松宮司を訪ね、四季のお祭りや神道についてお話を伺いました。

産土神社と氏神様

木屋瀬の人は、須賀神社を氏神様とか産土神社とか呼びますが、どのような違いがあるのかお尋ねしました。

氏神様は、元来は、血縁を中心とする守護神として祭られた神様です。古くは、藤原一族の氏神を祀る春日大社、平氏の厳島神社が有名です。産土神社というのは、人が生まれたその土地の人々を守護してくれる神様です。その土地に生まれると「産土神」の産子になります。古代では氏神さまの信仰が多かったのですが、近世になり農耕が盛んになり、領地やムラという運命共同体の地縁を重視するようになり、産子と血縁を重視する氏子が混同し、今では、一般に神社の祭域圏の人を氏子と呼び神社を氏神様と呼ぶようになりました。

須賀神社境内

どんど焼き

須賀神社は、木屋瀬の人の産土神社として氏神様として、氏子たちの幸せと生活を守ってくれる神様として永く崇められてきました。その加護に対する感謝の念が祭礼です。まず、年の初め一月一日午前零時より行われる祭礼が歳旦祭です。

歳旦祭とは、その年の氏子の安全と幸福をもたらす神様を迎える祭礼です。この行事は、皇室祭祀の一つでもあり、元旦には宮中でも天皇が皇室と国民の繁栄、五穀豊穣を願って祈願する祭祀が行われます。木屋瀬の須賀神社でも、十二月から準備が始まり境内には元旦の一週間前から、門松が立てられ、神様へお供えする鏡餅をはじめとしてお供え物の準備も始められます。「門松」とは、歳神様を迎える為の依り代とされています。「依り代」とは、神の寄り付く媒体を言います。松や竹などの、常緑樹が用いられます。

大晦日には、須賀神社境内では歳神様を迎える為の焚火が炊かれ、氏子の代表が神殿に揃い歳神様をお迎えするための歳旦祭が行われ、その年の氏子の安全と幸せ五穀豊穣が祈願されます。その後、大晦日から待機していた近郷近在の多くの氏子が初詣に参拝し、破魔矢やお札、お守りを購入して今年の無事を祈ります。

また、木屋瀬の各家でも、正月の軒先に注連飾りを付け、床の間には鏡餅をお供えし、お正月の料理おせち料理を準備します。正月が過ぎると、「どんど焼き」が行われます。小正月を中心として、「どんど焼き」が行われます。境内に大竹のやぐらを組み火を炊き、氏子が持ち寄った正月の注連飾りや縁起物を炊き上げ歳神様を送ります。須賀神社の「どんど焼き」では、毎年神前にお供えされた鏡餅を開き、餅入りのぜんざいが振る舞われます。

須賀神社は、木屋瀬の人々のいろいろな人生の場面や生活に深く関わっており、なくてはならない存在なのでしょう。

立ち止まり一礼するも御慶かな
大神に何を語るやどんどの火

本町　野口靖彦

第18回木屋瀬芸術祭開催

新しい時代の幕開けに華々しく

改元連休ともいわれた、5月の連休の3・4・5日の3日間、「第18回木屋瀬芸術祭」を開催しました。

初日3日は、全日本マーチングコンテスト6年連続出場し、昨年から真崎先生率いる木屋瀬中学校吹奏楽部によるコンサートを皮切りに、「木5女子。」と命名した若き女性5人の演奏家による木管五重奏コンサートで、華々しく開会いたしました。

中日4日は、恒例の筑前六宿連携事業として、竹川克幸・日本経済大学教授による講演「長崎街道と異文化交流～外国人から見た日本、長崎街道筑前六宿」、引き続き、筑前六宿フォーラムでは「地域連携による長崎街道筑前六宿と観光まちづくり」をテーマに議論が盛り上がりました。

また、語り一寄席のような朗読会では、北九州で活躍する朗読家の皆様による、ひと味違うユニークな朗読会が開催され、ご来場の皆様は深い感銘を受けたとのことでした。

最終日5日は、ご当地・木屋瀬宿場をどりをはじめ筑前郷土芸能連絡会議の皆様による筑前各地の伝承盆踊りの披露が行われ、郷土への熱い思いに包まれたステージとなりました。フィナーレは、恒例の参加者全員による「炭坑節」の総踊りで締めくくられました。

加えて、今年も各施設・店舗・団体が魅力ある企画を取り入れたおもてなしや取り組みを行っていただき、新しい時代の幕開けに相応しい芸術祭となりました。

貴重なお休みを返上し、事前準備から実施・片付けまで額に汗して取り組んでいただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

木屋瀬宿記念館運営協議会
こやのせ座運営部会長　山田　靖

木屋瀬中学校吹奏楽部コンサート

わたしの昔話

【柴田豊廣遺稿集】より

■木屋瀬（十）

神社の祭典は、その神の鎮座なされている地区の住民挙げての年中行事となっていて、人々も地区もお祭り一色となる。祭典に奉納される諸々の供え物や、祭典を盛り上げる催し事も行われ、多くの参拝者で神社も地区も大賑わいとなる。

こうした中でも、山笠が奉納される祭りは何とも勇ましくて男性的である。博多の清々しい朝の追い山笠や、田川の山笠渡河のごときは九州でなければ、九州人でなければと思われる勇壮な行事である。

ところが木屋瀬祇園祭奉納山笠は、山笠に川筋男の意気と熱気を吹き込んで、気勢をあげて曳きまわし、見物人まで勢いたたせ、博多や田川に劣らぬ勇ましいものである。

木屋瀬祇園山笠は寛永以前より明治の初め頃までは、高さも九メートル以上もある大山笠であり、この山笠に何個か飾られる張りぼての岩石を造る時なぞ、町中の人々が古い神社のお札や神社暦を持ち寄って岩石の下張りをしていた。こうして木屋瀬の人々の心がこめられて完成していた。この大山笠は非常に重かったので、他町村から若手勢子の加勢を求めた事もあったという。山笠が倒れないように四方に控えのロープを張っていたとも言われている。山笠の重さにお祝い酒が加わり、山笠が動かせなくなり、次の日まで山笠を放置していた事もあったようである。

次の時代では、金銀キラメク大山笠となったが、この山笠も町家の大屋根の上に山笠の頂を出してキラキラ輝きながら進んで行くのが、町の裏からよく見えていたほどの高い山笠であった。この頃はこんな豪華な大山笠を当番町一町内だけで建立奉納していたが、お祭りが近付くと山笠当番町に、山笠師が早々に乗り込み作業場を造り山笠造りにかかっていた。当番町内の暇な人の加勢や婦人達の加勢もあって先づ人形が出来れば、当番町内の通りに面した家に飾り公開していた。作業に用いていた二カワの匂いが、お祭りの匂いのように感じられ、お祭り気分はこの作業場から日毎に盛り上がっていた。

次の時代では町の家から家に電線が張り渡されたので、山笠も電線の下を走れる高さになり現在に至っている。

山笠の勢い太鼓は、黒田藩の陣太鼓をそのままに用いている事で、広く良く知られている勇ましいものである。大型の太鼓三丁を用い、それぞれの異なる打術を咬み合わせて打ち鳴らすものである。これに勢いづいた勢子衆は、山笠を生き物のように町を揺るがせて曳きまわす。こうしたはげしい動きの中で一時の憩いを得れば、勢子衆は風の中でも雨の中でも人混みの中でも、それは爽やかに男と男の裸の交流と親睦が始まる。伝統古き木屋瀬祇園と、川筋気質に若さが輝く木屋瀬山笠勢子衆の心が弾む、木屋瀬祭りの良さである、木屋瀬人の良さである。

（次号へ続く）

本町　柴田由美子

木屋瀬宿記念館運営協議会 第19回総会開催

さる4月26日㈮19時から、こやのせ座において長崎街道木屋瀬宿記念館運営協議会の第19回総会が開催され、平成30年度事業報告及び決算、平成31年度（令和元年度）事業計画及び予算が承認され、さらに、規約の一部改正、また、2年ごとの役員改選が行われました。

規約の一部改正は、運営協議会の円滑な活動を推進するため、規約第10条に専門部会の長の選任には「理事長を除く」となっている文言を削除したものです。

役員の新体制は、理事長・こやのせ座運営部会長に木屋瀬商工連盟の山田靖、副理事長・郷土史料館運営部会長に木屋瀬みちの郷土史料保存会の須藤達一さん（新任）、理事・運営事務局長に宿場木屋瀬街づくりの会の藤政文さん（新任）、理事・広報部会長に木屋瀬老人クラブ連合会の徳永興紀さん、理事に木屋瀬自治区会の高宮歳継さん、筑前木屋瀬宿場踊り保存会の藤嘉量さん、木屋瀬商栄会の松尾洋輔さん、木屋瀬青年会の舩川大十さん、監事に木屋瀬町並み案内ボランティアの会の近藤浩さんと木屋瀬自治区会の髙野義仁さんが選任されました。

なお、総会の最後に、15年間の長きにわたりボランティアを続けていただいた「こやのせ座女性ボランティアの会」の皆様へ感謝状を贈らせていただきました。

来年度に迎える記念館開館二十周年に向けて、地区の皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

木屋瀬宿記念館運営協議会理事長　山田　靖

今年も たくさんのご来場 ありがとうございました

「長崎街道ひなまつり　木屋瀬宿～立場茶屋銀杏屋」（平成31年2月9日～3月31日）は、昨年に引き続き、木屋瀬宿記念館、旧高崎家住宅（伊馬春部生家）、もやいの家、江戸あかりの民藝館、立場茶屋銀杏屋の5施設連携で開催しました。5施設それぞれが違った趣を醸し出し、ひなまつりだけでなく、長崎街道の歴史も併せて楽しむことができる内容でした。みちの郷土史料館には期間中1130名と多くの方々にご来館いただきました。ありがとうございました。